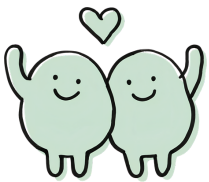
第27回市民活動応援プログラム

賛助金カンパ
対象団体紹介



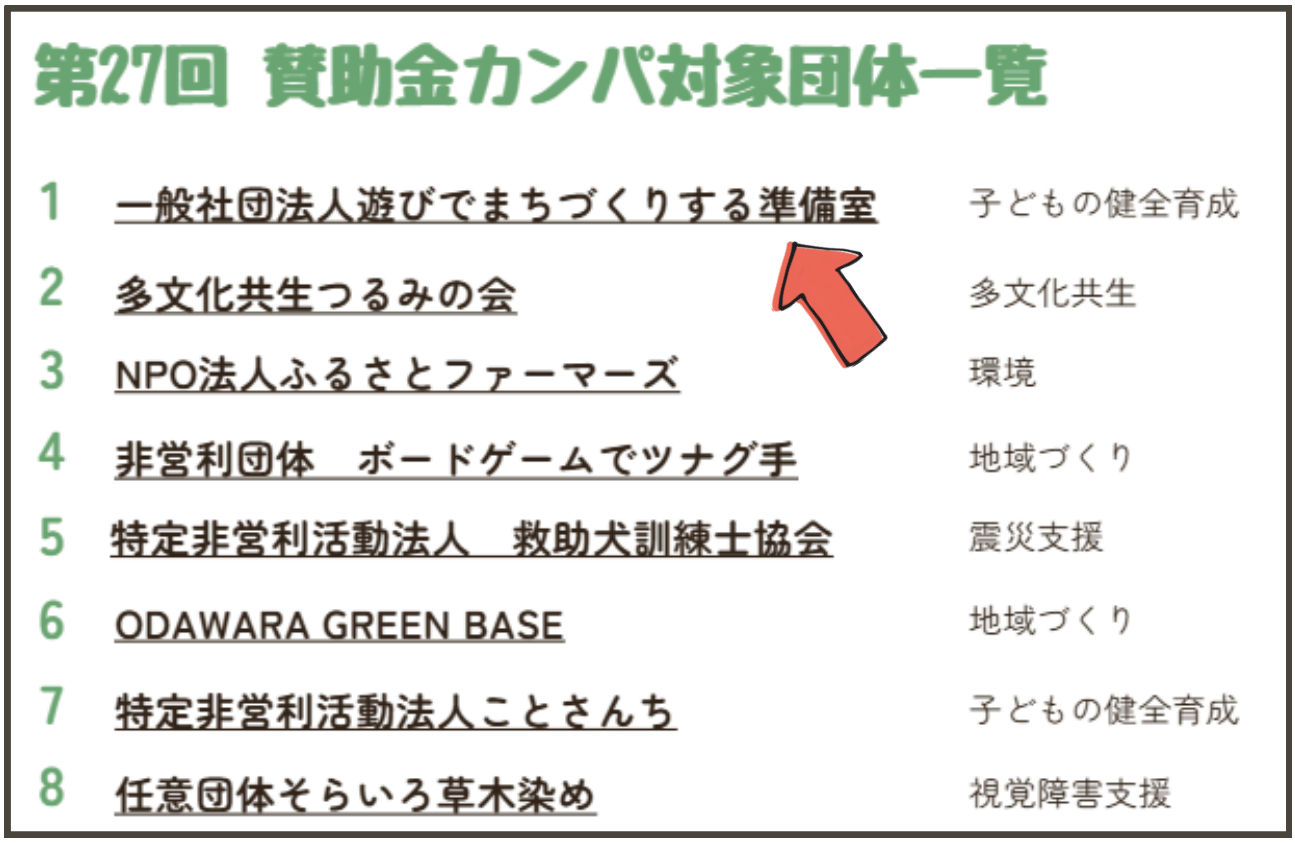
この度、一次選考にて厳正な審査を行い、
「賛助金カンパ」の対象団体として
２０団体が選ばれました。
市民のための地域づくりを進める
各団体のあつい想いを掲載しています。

団体の活動に共感した方は
ぜひカンパで応援を☆



贊助金カンパ対象団体紹介の見方

目次の各団体をクリックすることで、
それぞれの団体のページに飛ぶことができます



各団体のページの右上「目次へ」をクリックで
目次のページに戻ることができます



第27回 贊助金カンパ対象団体一覧

1	一般社団法人遊びでまちづくりする準備室	子どもの健全育成
2	多文化共生つるみの会	多文化共生
3	NPO法人ふるさとファーマーズ	環境
4	非営利団体　ボードゲームでツナグ手	地域づくり
5	特定非営利活動法人　救助犬訓練士協会	震災支援
6	ODAWARA GREEN BASE	地域づくり
7	特定非営利活動法人ことさんち	子どもの健全育成
8	任意団体そらいろ草木染め	視覚障害支援
9	NPO法人にゃぶ・猫を保護する人を増やす会	環境
10	NPO法人pena	子どもの健全育成
11	特定非営利活動法人こどものえんむすび	子どもの健全育成
12	みんなの居場所　nico川名	子どもの健全育成
13	おふとん直行便	地域づくり
14	フリースクールSACHI station	子どもの健全育成
15	一般社団法人セカンドスペーストゥエンデ	子どもの健全育成
16	NPO法人ははことファミリー	子どもの健全育成
17	自主夜間中学「つるみえんぴつの会」	学習支援
18	NPO 法人 暮らし就労支援協会	経済格差対策
19	TSUNAGU食堂	子どもの健全育成
20	TIE トマトマの会	子どもの健全育成

目次へ

非営利型一般社団法人

遊びでまちづくりする準備室

多世代によるこどものあそび環境づくり



団体HP

所在地	茅ヶ崎市
活動地域	茅ヶ崎市、藤沢市
活動開始日	2023年9月1日

@machi_no_schole

活動紹介

私たちは、学校の内外を問わず、多様な価値観や生き方に出会い、自分自身を探求できる環境を地域の中につくることが必要だと考えました。

2024年4月スタートから現在までに、延べ153回の活動を実施し、参加者数は延べ3,953名となりました。子どもたちが地域の多様な人や自然、仕事に出会える機会を継続的に創出しています。子どもたちが地域社会の多様な人々と出会い、学校や家庭だけでは得られない体験や学びを積み重ねるとともに、保護者や地域住民を含めた多世代の繋がりを育むコミュニティづくりを行っています。

地域に探究の場が生まれることは、保護者の心理的・物理的な負担軽減に繋がり、こどもたち自身の興味や関心を起点となる、自分らしくいられる機会になる可能性をひめます。

支援金を活用して実現したいこと

昨年も助成して頂きましたが、まだまだスタートアップ期で不安定な収入の為、継続的な安定した組織運営を実現し、より幅広く活動を知って頂く為の広報活動に力をそそぎたいです。
学校外の居場所づくりと地域と学校の間をつなぐ人材や機会の提供を通じて、教育環境の選択肢を広げることと、地域×教育の在り方の社会への提案をこれまで以上に推進してきたいと考えています。

今後の目標

『君もわたしもいい感じ』一人ひとりの“いい感じ”が広がる社会」をビジョンに掲げ、
自分らしく生きるための「アソビ（遊び・余白・遊ぶ）」を社会に届ける活動を続けていきます。
今後も、多世代が自然に交わり、互いを認め合いながら育ち合える地域社会を育み、
「多世代でいることが当たり前の風景」を神奈川県から広げていきます。

目次へ

多文化共生つるみの会

多文化共生の鶴見を実現する日本語教室

団体HP



所在地	横浜市鶴見区
活動地域	鶴見区全域 （特に海外ルーツの方が多く住む潮田地域）
活動開始日	2023年1月20日

活動紹介

海外ルーツの方たちから、その出身国の料理、歌や踊りを学ぶ活動を3年間行ってきました。
その経験のうえに2026年4月から新たに、日本に来られた外国人が社会の一員として
一緒に地域を支えていかれることを目指して日本語教室を開始しました。

2025年には100人以上が鶴見に住んでいる国は17か国にのぼるという外国人の多国籍化が
進んでおり、区民の間での相互理解と助け合いのためにも日本語学習は必須となってますが
教育を担当するボランティアは不足しています。

実際に潮田神社の祭りでは南米出身の3世やその子供たちが神輿の担ぎ手となっており、
海外ルーツの方がいることの楽しい側面を区内外に伝えていきたいです。

支援金を活用して実現したいこと

日本語教育を実施するボランティアの数が不足しており、またボランティアがより良い日本語教育を
実施できるために研修が必要で、その研修の費用として当助成金を活用したいです。
地域日本語教育の専門家による集中的な研修を行ない、地域内の退職教員などにも呼びかけて広く
参加してもらうことで、日本語教育のボランティアが増やすことが期待できます。

今後の目標

鶴見区民一般と海外ルーツの区民が、相互理解にもとづいて助け合う多文化共生の鶴見を実現する
ことが夢です。鶴見区内の各ケアプラザ（9か所）で地域の人が海外ルーツの方に
日本語を教えたり、生活上の困りごとの相談にのり、地区ごとのお祭りやイベントに
海外ルーツの方が参加して区民同士の日常的な交流を進められるようにしていきたいです。

目次へ

NPO法人ふるさとファーマーズ

自然と共生する農業を推進

団体HP



所在地	茅ヶ崎市
活動地域	茅ヶ崎市 芹沢地区
活動開始日	2020年5月

@furusatofarmers

活動紹介

コロナ禍で小麦粉や大豆製品が店頭から消えた経験をきっかけに、日本の食と農の脆弱さに危機感を持ち、地域の農を守る活動を始めました。

茅ヶ崎市北部で、耕作放棄地を不耕起・無農薬で再生しています。小中学校での環境教育や農業体験に加え、地域農家と田植え・収穫・餅つき・味噌づくり・採蜜体験等を行い、農と食を通じて地域の人がつながる場を広げています。

地域では農家の高齢化や担い手不足によって管理が難しくなる農地が増える一方、子どもや市民が農や自然に触れる機会は減少しています。私たちは耕作放棄地を再生するとともに、地域農家と市民をつなぐ農作業や交流イベントを実施しています。農家だけで農地を支えるのではなく、市民も楽しみながら農に関われる機会をつくることで、農地保全と地域コミュニティづくりの双方に貢献します。

支援金を活用して実現したいこと

昨年度の支援により、活動を支える人材や機材を確保し、農地再生や教育活動、地域交流を広げる基盤を整えることができました。
2027年は、地域農家と市民が農と食を通じて継続的に交流できる機会を増やし、活動を地域に定着させる段階と考えており、そのための運営人材、必要な機材・資材、交流イベント費用に本助成金を活用したいと考えています。

今後の目標

これまで進めてきた農地再生を基盤に、地域農家と市民が継続的につながる「ひらかれた農の場」へ発展させることを目指します。田植え、稲刈り、収穫、餅つき、味噌づくりなど、農作業から食までを一緒に楽しむ機会を年間を通じて増やし、「地域農家とともに、市民も支える農」へと関係を広げていきます。

目次へ

非営利団体ボードゲームでツナグ手

『安全基地』を地域につくる

団体HP



所在地	藤沢市
活動地域	藤沢市中心 （御所見・辻堂・湘南台・長後） 横浜市・川崎市
活動開始日	2021年4月1日

@yoji.nagayama

@nagayama_sales

活動紹介

子ども食堂や市民の家にボードゲームを持ち込むうちに、遊んでいる最中の子どもがふと家庭のことを話し出す場面に何度も立ち会いました。勝ち負けが終われば関係が戻るこの遊びは、
成績や評価にさらされずに人といられる時間をつくります。同時に、ルールを読み解き、順番を待ち、相手の手を考えることが、そのまま学びになっている。子どもと保護者の両方に必要な場だと考え、2021年4月に活動を始めました。

藤沢市を中心に、ボードゲーム等を使ったイベントで子どもと保護者の居場所をつくっています。
市民の家や市民センターでの教室、子ども食堂・駄菓子屋・高校内カフェ・学童での開催など
2026年1〜7月だけで約160回、のべ約6,000人が参加。遊びを入口に、
考える力と親子の会話を家庭に届けています。

支援金を活用して実現したいこと

子ども食堂と学童に有償スタッフを配置し、一人ひとりの子どもに向き合える体制を
つくっていきたいです。
参加費は無料の方針を続けているため、この人手を自主財源で確保することができません。
支援金により、子ども食堂2拠点に有償スタッフ各1名（年24回）、学童に外部ゲスト1名
（月1回・年12回）を配置し、子ども一人ひとりに向き合える体制をつくります。

今後の目標

不登校・引きこもりの子ども、経済的に厳しい家庭の子どもが、平日の昼間にも安心して過ごせる居場所を藤沢市内につくることが目標です。
最終的には、子どもから大人まで誰もが立ち寄れる常設のボードゲームスペースを開き、
来たい日に来られる居場所にしたいと考えています。

目次へ

特定非営利活動法人救助犬訓練士協会

災害救助犬の育成

団体HP



所在地	藤沢市
活動地域	神奈川県及び全国
活動開始日	2005年1月6日

@npo.rdta

活動紹介

震災時、不特定多数の行方不明者を国際救助犬を活用し、少しでも多くの人命を助けるために
救助犬ペアを育成しています。

2013年　八ヶ岳国際救助犬育成センター設立（日本財団助成金）
育成センターでは、年３回救助犬試験を実施
2024年11月　実働想定試験（国内MRT）実施
消防、警察、自衛隊各行政との連携訓練並びに防災訓練デモ（通年）
2026年7月28日熊本地震出動

年間を通して神奈川県、を中心とした各機関との連携訓練並びに、地域防災訓練、学校訪問、
養護学校慰問などの地域からも信頼される団体です。

支援金を活用して実現したいこと

行政機関等の防災訓練並びにデモンストレーションの場を活用し、日頃より実働想定をした
防災訓練やハイレベルな捜索訓練の場を活用した国際基準にそう救助犬育成に役立てたいです。
学校訪問や養護学校訪問などの機会を増やし救助犬の認識や重要性を知ってもらい、かつ、
ふれあいを通して身近に感じる活動の機会を増やしたいと考えています。

今後の目標

震災時には、各種機関との連携をはかり、各レスキューチームとして国際基準の救助犬との帯同で
迅速な捜索救助活動を実施し、信頼される災害救助犬の育成を目指します。
救助犬ペアのレベルを確立する仕組みを日本に導入したいと考えています。

目次へ

ODAWARA GREEN BASE

耕作放棄地の再生活動



所在地	足柄上郡山北町
活動地域	小田原市及び 近隣市町村
活動開始日	2026年8月8日

活動紹介

小田原市及び近隣市町村で行われている援農活動（そがやまみらいプラン、ジョイファーム小田原等）に参加する中で、耕作放棄地の増加に歯止めがかからない現実を目の当たりにしました。
10年以上放棄されたキウイ畑があり、そこを対象とした再生活動を始めることとし、有機栽培勉強会グループ（非農家）で有志を募ったところ、一般市民7名の参加表明があり、
団体として活動することとなりました。
2026年4月より地元農家の方の圃場にて、キウイ栽培研修の活動が始まっております。

増加する耕作放棄地について、一般市民が何とかしたいと思っても、就農するハードルが高く、なかなか行動に移せない現実があります。そこで、農家の方にご協力頂き、就農せずともグループとして主体的に耕作放棄地の再生および栽培運営ができる仕組みを作ることを目的としています。

支援金を活用して実現したいこと

助成金を以下の活動費に充てることで、メンバーの金銭的負担を減らし、活動を継続できる体制を構築致します。
①キウイ栽培用具の購入
②キウイ栽培研修講師依頼費用
③活動のための勉強会や打合せで使用する会場費等
④活動メンバーの交通費補助

今後の目標

まずは放棄されたキウイ畑を再生し、安定した収量が得られる畑にすることを目指します。
将来的には参加者を増やし、多くの圃場を運営する事業として発展することを目指します。

目次へ

特定非営利活動法人ことさんち

いろんなかたちの親子への支援

団体HP



所在地	横浜市都筑区
活動地域	主に神奈川県 他全国
活動開始日	2022年1月11日

@npo.cotosanchia

活動紹介

『様々なかたちの親子が特別視されることなく生きやすい社会をつくる』ことを理念として活動を行っています。誰もが親がいて子であり、当事者です。
全ての人が境遇や背景に重みを感じることなく生きられる社会になるためには、
『知る』『知らせる』ことがその一歩と考えています。

・様々なかたちの親子のひとつである里親子・養子縁組親子の場を作りながら、つながり作りと周囲を気にせずに親子時間を過ごせる環境を用意している『ことさんち広場』
・誰もが【おもちゃ】と【あそび】でつながれる場『あかちゃんの会とおもちゃの広場』
・存在と良さ、当事者の思いを伝えるパネル展示『いろんなかたちの親子展』
などを主な活動として行っています。
今後はさらに多様な親子の場も作りつつ、全国展開を目指します。

支援金を活用して実現したいこと

活動の継続・規模拡大・話題とともに周知啓発の広がり、を実現していきたいです。
毎月開催をしている『ことさんち広場』『あかちゃんの会とおもちゃの広場』の安定した開催ができるようになります。『都筑区民まつり』は、推薦を経て3年連続で出店しており、
知名度及び活動の周知啓発につながっています。

今後の目標

どの活動においても全国へ展開していくことを目標としています。
そして、どの地域でもどこへ行っても誰もが生きやすい環境をつくり、
互いに思いを馳せあえる社会になるようにしていきたいです。

目次へ

任意団体そらいろ草木染め

ユニバーサルアートとしての草木染体験を提案

団体HP



所在地	座間市
活動地域	相模原市
活動開始日	2026年4月1日 （前身活動は2016年4月1日）

@npo.cotosanchia

@kotosora2022

活動紹介

網膜色素変性症の持病がある妻の、視力が徐々に低下する中で「（自分が）持っているブラウスの色や柄の違いも分からない」と残念そうに妻が言ったことをきっかけに、何かできないかと模索してたどり着いたのが「草木染」でした。妻と共に草木染を試してみるととても楽しそうに目を輝かせていました。これをもっと多くの視覚障害のある方々と共有したいと思いました。

神奈川県相模原市の会場で、視覚障害のある方も1人で参加できる草木染ワークショップを開催しています。みんなで草木の素材に触れてカットした煮出して染液を作る工程から絞り染めの手技を行い、染料に浸けて染色して仕上げるまでの全てを体験します。染めたい品物はハンカチ、ブックカバー、ストール、トートバッグなどから事前にそれぞれの参加者が事前に選択します。
染める草木の「手触り」、草木を煮出す「香り」を視覚以外でも「感じる」ことができます。

支援金を活用して実現したいこと

支援金により、単発の体験会にとどまらず、複数回・複数地域での継続的なワークショップ実施が可能になります。また、案内資料や広報物を充実させることで新たな参加者や協力団体との接点が生まれ、活動の認知度向上と会員・賛助会員の拡大にもつながると見込んでいます。助成終了後も自立して活動を継続できる体制づくりを進めていきたいと考えています。

今後の目標

現在は相模原市を中心に活動していますが、今後は開催地域を県内他地域にも広げ、
より多くの視覚障害のある方に「見えづらくても楽しめる」草木染体験を
届けていきたいと考えています。

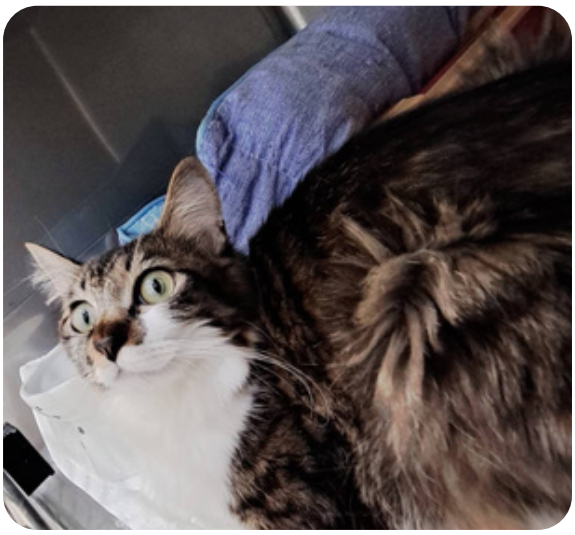
目次へ

NPO法人

にゃぶ・猫を保護する人を増やす会

猫の保護活動を行うNPO

団体HP



所在地	横浜市
活動地域	横浜、藤沢市 （泉区、瀬谷区、戸塚区を中心）
活動開始日	2002年ごろ

@mikenosato_nyab

@nyabu_izumiku

活動紹介

2002年に福岡で起きた猫虐待事件を知り、虐待者から猫を守るために外の猫を保護するようになりました。伊藤個人で始めた活動が徐々に輪が広まり、多くのボランティアが関わって多くの猫が幸せな家庭に引き取られるよう活動を続けています。

泉区を中心に保護猫活動をしています。保護した猫はボランティア宅で人馴れを進め、避妊去勢手術後里親探しをしています。里親が見つからない猫も最期の看取りまでお世話しています。ここ数年は高齢者が死亡、または施設へ入るなどお世話が困難になり、他に猫の世話をできる人がいない為の引取依頼も増えています。そうした猫も引取り、温かい家庭で過ごせるよう里親を探しています。

殺処分、飼い主による遺棄、交通事故死、虐待者による殺戮、昨今の地球温暖化による過酷な環境。そのような状態から守る為活動をしています。

支援金を活用して実現したいこと

医療費を助成して頂くことにより、病気の猫も完治すれば譲渡へと結び付けることができます。
難病の為入院している猫と高齢者問題が影を落としている今、さらに医療費の増加は不可避となります。是非ともお力をお借りしたいです。
１回目で助成金も有難かったですが、広報活動などもして頂き、譲渡会活動にも幅がでました。

今後の目標

昨今では保護猫活動を取り上げる番組もあり、徐々に浸透しつつありますが、ペットを飼う場合、保護猫を選択肢にしてもらえるよう活動を通して広めていきたいです。
地域で生まれ育った猫達を地域の人達で育てる意識が持てたら素晴らしいと思います。

目次へ

NPO法人pena

リトルベビー（低出生体重児）とご家族を支援

団体HP



所在地	平塚市
活動地域	神奈川県
活動開始日	2021年7月24日

@pena.kanagawa

活動紹介

当団体はリトルベビーと家族が地域で孤立せず、親が笑顔で子育てでき、子どもが健やかに成長できる社会の実現を目指し、当事者同士や医療・行政・地域住民と温かくつながれる居場所づくりに取り組んでいます。

ピアサポートでは、交流会や個別相談、グループLINEの運営を通じてリトルベビー家族同士が悩みや経験を共有し、支え合える場を提供しています。交流会では「一人じゃない」と感じることができる一方で、出生体重や合併症の違い等を理由に個別的な相談がしにくいという課題が発生するため、個別相談事業によって一人一人の悩みに寄り添えるようにしています。
当事者の声を届ける活動では、国・行政・自治体に積極的に働きかけており、担当省庁や国会議員、知事や市長、担当課の方に直接会って、実際に困った事や不安だった事を伝えている。県内で構築してきたネットワークにより、行政・自治体・他団体と協働した活動も行えています。

支援金を活用して実現したいこと

ご家族が仲間と繋がることで孤育てを防止すること。そして地域の方にリトルベビーを知っていただき、地域での居場所をつくり必要な支援に繋がれること。
リトルベビーと家族が笑顔で過ごせる社会の実現を目指しています。
高まるニーズに応え続け、組織基盤を維持・強化するために本助成金を必要としています。

今後の目標

将来的には、リトルベビーとその家族、そして地域住民や多様な専門職が当たり前に繋がり合える「地域交流拠点の開設」と「総合的なプラットフォームの構築」を実現したいです。
社会や地域全体で子どもと家族を包み込む社会の実現を目指します。

目次へ

特定非営利活動法人こどものえんむすび

子育て中のひとり親世帯への食支援

団体HP



所在地	厚木市
活動地域	厚木市
活動開始日	2022年4月16日

@enmusubiiiii

活動紹介

まだ美味しく食べられる食品をいただき、食を必要とするご家庭へ届ける地域の助け合い活動です。
年間約472万トンの食品ロスが発生する一方、日本では相対的貧困率の上昇やひとり親世帯の生活苦が深刻化しています。「まだ食べられる食品が捨てられる一方で、明日の食に困る親子がいる」という矛盾を解決するため、フードパントリーの活動を開始しました。

私たちが大切にしているのは、食べ物と一緒に「一人じゃないよ」という温かな安心感を届けることです。食品の配布にとどまらず、親子で笑顔になれるイベントやお子さんの体験機会を通じて、
子育てに安心をプラスする居場所づくりを目指しています。
地域の企業やボランティアのみなさんと手を携え、食と笑顔でつながる優しいまちの輪を広げています。

支援金を活用して実現したいこと

経済的理由や生活環境により宿泊・自然体験の機会が得にくい子どもたちへ、安全で質の高い「インクルーシブキャンプ」の機会を提供します。
ガールスカウトの専門的知見を活かした体験プログラムや万全な安全管理体制の構築に活用し、
子どもたちが境遇の異なる仲間と協力し合いながら「大切にされている自分」や「できた」という自己肯定感を育む場を実現します。

今後の目標

定期的なフードパントリーの開催を通じ、多世代が自然に交流できる場を創出します。
体験活動や交流を通じ、子ども達が自己肯定感を育める成長の場を醸成することで、
親子が「独りではない」と感じられる温かなコミュニティを築きます。

目次へ

みんなの居場所　nico川名

子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所をつくる

団体SNS



所在地	藤沢市
活動地域	藤沢市川名
活動開始日	2024年6月29日

活動紹介

みんなの居場所nico川名は、子どもたちが安心して過ごせる、無料で利用できる地域の遊び場です。
遊びや学び、食を通じて心を育み、将来は世代を越えた地域の多世代コミュニティを目指します。
自分たちの子どもも地域の子どもたちも安心安全に過ごせる放課後や長期休業期間の居場所の
必要性を感じ、居場所づくりをはじめました。

子どもたちが安心して過ごし、自分らしくいられる居場所を地域につくることを目的としています。
学習や遊び、食事などを通して、異なる学年や世代の人と自然に関わりながら、人とのつながりを育む
場を提供しています。また、子どもだけでなく、保護者や地域の大人にとっても、気軽に立ち寄り、
つながることのできる場所を目指しています。

支援金を活用して実現したいこと

地域内外の子どもも大人も安心して過ごせる無料の居場所を継続したいです。現在は、いただいている
助成金の一部をスタッフの人件費に充てていますが、必要な人件費を安定して確保することは難しい
状況です。今後も遊び場の参加費無料の活動を継続し、運営スタッフが無理なく関わり続けられる
体制を整えるため、助成金による支援を必要としています。

今後の目標

子どもたちが安心して過ごせる居場所として活動を継続するとともに、子ども・保護者・地域の大人・
学生など、さまざまな世代が自然につながる場へと発展させていきたいと考えています。将来的には、
みんなの居場所nico川名で生まれたつながりや仕組みを地域に広げ、子どもたちを地域全体で見守る
環境づくりにつなげていきたいです。

目次へ

おふとん直行便

ワンオペ親子のナイトケア

団体SNS



所在地	横須賀市
活動地域	横須賀市
活動開始日	2026年1月24日

活動紹介

おふとん直行便とは、「みんなでがんばらない夜をつくる」を合言葉に、夕方から夜の子育てを地域のみんなで支え合う、子育て親子のためのナイトケアです。
夕方から夜の時間を一人で頑張っているお母さんに寄り添いたい。「誰かに頼っていい」「今日くらい頑張らなくてもいい」と思える場所を地域につくりたい。そんな思いから、「みんなでがんばらない夜をつくる」を合言葉に、「おふとん直行便」を立ち上げました。
これまでに2回開催し、13組の親子が参加しました

看護師・保育資格者・保育学生・地域ボランティアなど、さまざまな人がスタッフとして活動しています。場所を固定せず、親子カフェや古民家など、地域にあるさまざまな場所を活用することで、より多くの地域の方が関わりやすい活動を目指しています。

支援金を活用して実現したいこと

「必要としている親子に、おふとん直行便を届ける」ことを実現したいです。地域の子育て施設・保育園・学校・医療機関などへのチラシ設置・配布やSNS発信を行い、まだ活動を知らない子育て家庭にも情報を届けます。「家や保育園の近くで開催してほしい」という声に応え、駅やバス停からのアクセス、子育て家庭の生活圏などを考慮した会場を地域の中で開拓します。

今後の目標

横須賀から、地域に根づく「夜の親子の居場所」へ。夕方から夜の時間に親子が安心して集える場として、地域に根づかせ、継続的に開催できる仕組みをつくります。まずは横須賀市で活動を継続し、地域に根づく「夜の親子の居場所」のモデルをつくります。将来的には、その地域に合った形で他地域にも広がることを目指します。

目次へ

フリースクールSACHI station

個性と時代に合った学びを

団体HP



所在地	海老名市
活動地域	県央地域 （海老名市を中心）
活動開始日	2020年5月16日

@sachistation2023

活動紹介

学校に通うことがむずかしい子どもや新しい学びを求める子どものためのフリースクールを運営しております。そんな彼らと日々向き合うなかで、学力だけでは「大人になる力」は育たないと感じてきました。

小学生から中学生を対象に、学校とは別のかたちで子どもの学びと居場所を支えています。教育の柱として、「生きる力」「生活力」を重視し、その中核として食育に取り組んでいます。毎日の食事作りと月1回の食育講座（座学と調理）を軸に食育を進めながら、駄菓子屋・八百屋運営や畑での農作業、月2回の町内清掃などで地域とつながる活動も続けております。今回申請させていただいた活動は、スクールの生徒へ食育講座を充実させるとともに、それを踏まえた生活力に関する講座を、スクール外の地域の方に向けて開催。さらに、その収益を地域の子ども食堂へ還元することで、微力ながら地域の食に関する質の向上のお手伝いがしたいと考えています。

支援金を活用して実現したいこと

食を中心に「生活力」を育てる1年間の活動を、次の3本柱で実現します。
①月1回の食育講座（座学＋調理）で、子どもたちの食を初めとした生活力を育てる。
②年3回、生活力に関するいろいろな市民向け講座を地域の親子に開く。
③月1回、私設図書館での駄菓子販売。
とりわけ②と③は、目的に掲げた「地域との交流の入り口」が具体的に生まれる場です。

今後の目標

食育を軸とした「生きる力」の育成を、スクール内の実践から地域に広がる取り組みへと育てていくことが目標です。子どもたちが地域で役割をもち、地域の人と自然につながる機会を継続的に生み出していきます。将来的には、この取り組みが不登校の子どもと地域をつなぐひとつのモデルとなり、同じ課題を抱える他地域の団体にも参考にしてもらえる形をめざします。

目次へ

一般社団法人セカンドスペーストゥエンデ

不登校の子どもたちのためのフリースクール

団体HP



所在地	相模原市中央区
活動地域	相模原市
活動開始日	2024年10月1日

@secondspace.twende

活動紹介

学校に行きづらさを感じている全ての不登校児童生徒を対象にしたフリースクールと、学校に通っているが、様々な事情で学習が難しい児童生徒を対象にした無料塾を運営しています。

近年の教員不足の問題は、増え続ける発達障害を受け入れる支援級を圧迫し、支援級での不登校をも増加させています。学校現場で管理職に環境の改善を求めたが、実現しなかったため、外部で不登校の全ての子どもたち、障害の有無を問わない児童生徒に対応しようとフリースクールを立ち上げることを決めました。

相模原市の不登校児童生徒は2084名（令和6年度）にのぼる一方、日中過ごせる民間の居場所は限られていて、その子に合った場所を見つけることは難しいです。民間の力で今見えている子どもたちの様子を行政との連携協議会などで伝えていくことができると考えています。

支援金を活用して実現したいこと

不登校児童生徒が安心して過ごせる居場所を週3日に広げ、8名の子どもたちが通える体制をつくっていきたいです。
外部イベントなど子どもたちが普段できない社会体験活動への参加、講演会を行うことにより社会への問題提起、カフェ事業や無料塾などによって、不登校を生み出す環境の改善を今後も地域社会への問題提起としていきたいとも考えています。

今後の目標

近年増え続ける不登校児童生徒が安心して過ごせる日中の居場所の提供と、学習につまずきや発達の特性があり、学校に行きづらさを感じている児童生徒への学習支援や発達支援をしながら関わることを通して、自己肯定感をあげて、学校で学ぶ楽しさを取り戻したいです。

目次へ

NPO法人ははことファミリー

地域の子どもとその保護者に対し、子ども・子育て支援

団体SNS



所在地	大和市
活動地域	大和市
活動開始日	2021年5月13日

@hahakoto.family

活動紹介

代表者の紙芝居活動の経験から地域の課題を感じ、大切な子どもの命を地域で守り育むための「みんなの子ども会」を目指して結成しました。

拠点での毎週1回の駄菓子屋・居場所開催、地域のおまつりやマルシェへの駄菓子屋等の子ども向け店舗の出店、紙芝居・食育・体験あそびなどの地域の子ども向けイベントの開催など、地域の子どもの居場所と教育の一端を担う活動をしています。2026年から新たに小学生の一時預かり活動も開始しました。

学校活動が中心となる少子化社会の子どもの間では、異年齢交流や学校外での同年代の子どもとの交流が少なくなっています。共働き家庭も多い中、子どもたちが学校外で安心して他の子どもとの交流を持ち、遊びや体験活動を通じて豊かな心を育む機会を得ることが必要です。
ははことファミリーは、これらの居場所、遊び、体験活動を提供しています。

支援金を活用して実現したいこと

毎月のははことサンデー拡充、子どもを真ん中に地域の人と学び・遊び・体験がつながる継続的な居場所にすること。現在、毎月第３日曜に株式会社ハッソーの駐車場を活用し、子どもを中心に地域の人が集う「ははことサンデー」の継続・発展を計画しています。
助成を活用して、地域で継続できる仕組みづくりを進めたいと考えています。

今後の目標

活動を拡充し、地域で重要な役割を担う子育てチームの一員になります。
現在の小学生中心の活動から、生まれる前から大人になるまでの連続した支援に拡充し、より健康で豊かな子育て環境の普及を目指します。

目次へ

自主夜間中学「つるみえんぴつの会」

市内で唯一の自主夜間中学



所在地	横浜市鶴見区
活動地域	横浜市鶴見区
活動開始日	2012年6月20日

活動紹介

２０１４年３月、横浜に5校（鶴見中学、浦島丘中学、中尾台中学、西中学校。蒔田中学校）あった夜間中学が蒔田中１校に統廃合されました。２０１２年に鶴見中学夜間学級は募集を停止しましたが、学びを求めている方々に応えるため、２０１２年６月２０日に自主夜間中学「つるみえんぴつの会」を発足させました。

様々な事情で勉学の機会に恵まれなかった方、ひきこもり、経済的困窮、不登校などの状況にあり学びなおしたい方々への学習支援を目的としています。また、特に鶴見区は外国から来られた方が多く、多文化共生の街であり、日本語学習のニーズの高まりにも応えていくため国籍を問わず学習支援を行っています。

支援金を活用して実現したいこと

広報活動を通じて、学びの支援を必要としている多くの人に「つるみえんぴつの会」があることを伝えていきたいです。そして、財政保障を基盤として、会の学習支援体制をさらに強化。
地域の方により広く夜間中学のことを知っていただくためと、広い視野と教養を培っていくために、外部の各専門分野の講師を招き講演会や研修活動を行っていきたいです。

今後の目標

様々な事情で勉学の機会に恵まれなかった方、ひきこもり、経済的困窮、不登校などの状況にあり学びなおしたい方々への学習支援を通じて、共に生きる社会がより素敵なものにしていきたいと思っています。

目次へ

NPO法人暮らし就労支援協会

生活困窮者への住まい・就労・生活保護の相談支援

団体HP



所在地	横浜市西区
活動地域	神奈川県 （横浜市を中心に県内全域） 静岡県西部でも実施。
活動開始日	2024年12月
	@kurashi_syurou
	@kurashi_syurou

活動紹介

神奈川県内を中心に、生活にお困りの方の相談を無料でお受けしています。立ち上げから半年で約60件の相談に対応しました。主な内容は、生活保護の申請支援と窓口への同行、保証人が立てられない方の住まい探しと大家・不動産会社の開拓、求人の開拓と就職後の定着支援です。あわせて、かながわ県民センターでの対面相談会、オンライン勉強会、SNSとブログによる制度情報の発信を行っています。

生活の相談を受けるなかで、住まいと仕事が同時に崩れている方に何度も出会いました。家がないと住所が書けないので仕事が決まらない。仕事が決まらないと収入がないので部屋が借りられない。
この輪の中で何年も止まっている人がいます。住まいの支援と就労の支援が別々の窓口に分かれているために、どちらからも抜け落ちてしまう。その現実を前にして、住まいと仕事をひとつの窓口でまとめて受けられる団体が必要だと考え、当会を立ち上げました。

支援金を活用して実現したいこと

1. 相談を受けきる体制の整備。問合せ対応用のスマートフォンを整え、電話・SMSでの相談を確実に受けます。
2. 「連絡先がない」状態の解消。料金滞納で携帯が止まった方へ端末を一時貸与し、求職・行政手続き・入居連絡を可能にします。
3. 相談記録・申請書類・広報物を作成するための事務環境の整備。
   目標：貸出用携帯により年間10名以上の「連絡先がない」状態を解消。

今後の目標

住まいと仕事のワンストップ支援を、神奈川県内で仕組みとして定着させることを目指します。
相談から自立までの歩留まりを一件ずつ改善し、支援を受けた方が次の誰かを支える側に回れるところまでを目指しています。

目次へ

TSUNAGU食堂

食支援だけで終わらせない子ども食堂

団体HP



所在地	横浜市金沢区
活動地域	横浜市金沢区
活動開始日	2022年5月21日

@tsunagu_pj

活動紹介

横浜市金沢区を中心に、月1回「TSUNAGU食堂」を開催しています。お弁当や食品・生活支援品を無料で提供するだけでなく、「食べる・学ぶ・つながる」をテーマに、防災クイズ、昆布やしいたけを活用した食育、環境学習、マジックなど、毎回さまざまな体験プログラムを実施しています。

地域のこどもたちや子育て家庭を支える中で、食事を届けるだけでなく、地域の中で人と人がつながり、こどもたちが安心して過ごせる居場所が必要だと感じたことが活動のきっかけです。こども食堂を「食事を提供する場」で終わらせず、食育や防災、さまざまな体験、多世代との交流を通じて、こどもたちの学びや成長につながる場所にしたいと考え、TSUNAGU食堂の活動を始めました。

現在は「食べる・学ぶ・つながる」を大切に、企業、大学生、地域ボランティアなど多様な人たちと連携し、地域全体でこどもを見守り育てる居場所づくりに取り組んでいます。

支援金を活用して実現したいこと

本支援金を活用し、毎月のTSUNAGU食堂を、食事の提供に加えて、こどもたちが楽しみながら学び、挑戦できる体験の場としてさらに充実させたいと考えています。
具体的には、防災、食育、環境・SDGs、地域文化などをテーマに、クイズやゲーム、工作、実験、試食などの体験型プログラムを実施します。平時から顔の見える関係を広げることで、孤立の予防や災害時の共助にもつながる、「地域みんなでこどもを育てる」仕組みを実現したいと考えています。

今後の目標

TSUNAGU食堂を、食事を提供するだけの場所ではなく、こどもたちが地域の中でさまざまな人や体験と出会い、安心して挑戦できる「地域の学びと交流の拠点」へ育てていくことが目標です。「地域みんなが先生になる」環境をつくり、食育、防災、環境、文化など多様な体験を継続的に届けていきます。

目次へ

ＴＩＥトマトマの会

日本語や学習のサポート



所在地	茅ケ崎市
活動地域	神奈川県
活動開始日	2009年4月1日

活動紹介

外国にルーツをもつ中・高生を中心として、日本語と主に数学・英語中心の教科支援及び進路相談にあたっています。また、交流会などを通して互いに自分の言語や文化を表現できる場を提供しています。

1972年の日中国交回復後、 中国から多くの帰国者があり、 神奈川県にも受け入れ団体ができました。その中で日本の学校に参入していく子どものための教室を立ち上げました。

横浜という土地柄、外国籍の子ども達が年々増加傾向にありますが、学校等の公的な援助では不十 分です。 日本語と学習の支援・進路相談を始め、安心できる居場所を提供しています。
保護者に合わせて来日した子ども達が、 慣れない環境に落ち着けるまで安心できる学習の場所と居場所となれることを目指しています。

支援金を活用して実現したいこと

活動の継続と、今年度は子ども達とボランティアの作文を中心とした活動記録をまとめて本にしたいと考えています。
コロナ以前には取り組めていたキャンプや、 交流会の活性化を検討し孤立しがちな子ども達 の安心出来る場、 楽しい場としたいです。 また、 防災の体験学習などにも取り組みたいです。

今後の目標

今後増えるであろう外国籍の子ども達を受け入れ、充分な学習支援・交流活動に取り組みたいです。
また、 ボランティア間の情報を共有し、指導に生かしていきたいと考えています。